

1 経緯

- ・現防災情報システムは、H23.5から運用を開始し、道と市町村をネットワークで結び、気象情報を市町村へ伝達しているほか、ホームページやメールで道民や防災関係機関へ防災情報を発信。
- ・H26.7からLアラートを活用したテレビ・ラジオ等への情報配信を開始。
- ・この度、老朽化に伴うサーバー等の更新、地図機能や多言語化など新たな機能を付加した新システムへ移行。

2 新システム概要

- ・運用開始：令和3年(2021年)7月から
- ・整備費：4億5千万円（緊急防災・減災事業債100%充当）
- ・システム開発：日本アイ・ビー・エム（株）・機器整備：日本電気（株）



3 新たな機能と特徴

(1) 新たな避難情報に対応

災対本部

市町村

住民等

R3.5.20に改正された新たな避難情報と警戒レベルに対応。避難情報が発令されると緊急速報メール、防災メール、Lアラートで瞬時に住民や報道機関等に通知。

- ・新たな避難情報
「レベル3高齢者等避難」「レベル4避難指示」「レベル5緊急安全確保」

(2) 多言語（14か国語）による情報配信

住民等

気象情報、避難情報等をポータルサイト、防災メールで多言語により配信。
日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ロシア語、タイ語、マレー語、スペイン語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語

(3) 避難所管理

災対本部

市町村

住民等

避難所の開設状況をポータルサイトの地図上で表示。

- ・3種類のアイコンで表示
閉鎖・未開設 (白) 開設中 (黄) 受入不可 (緑に×)

(4) 各種情報を地図上に重ねて表示

災対本部

気象情報、河川・道路情報、被害情報、避難情報、関係機関の部隊派遣情報等を地図上に重ねて災害対策本部のモニターに表示することで、本部の情報共有と意思決定を支援。

また、SIP4D※により防災関係機関との情報共有が可能。

※SIP4Dは内閣府主導により国立研究開発法人防災科学技術研究所が開発した基盤的防災情報流通ネットワーク

(5) SNS AIサービスの活用

災対本部

市町村

TwitterやFacebook等のSNSに投稿された情報をAI解析し、災害現場を特定し映像を配信する民間のサービス「スペクティー※」を活用し、災害対策本部の情報収集機能を支援。

※(株)Specteeが提供するサービス